特定非営利活動法人
ぷれいす東京

Newsletter
2009年11月号 No.63

CONTENTS

「不特定多数はホントにキケン？
～女性のセックスと特定神話～」..... 01
第9回アジア太平洋地域エイズ国際会議
参加レポート 02
ぷれいす東京　新人ボランティア合同研修会..... 03
ゲイバーを通じた地域介入プログラムについて 04
ネストより..... 06
部門報告（2009年7～9月）..... 08

「不特定多数はホントにキケン？　～女性のセックスと特定神話～」

大阪教育大学 准教授　野坂 祐子

「出会い系サイトはキケン」「セックスをしてお金をもらうなんて、イタイ目にあうに決まってる」「やっぱり、愛のあるセックスが一番！」――女性のセックスにまつわるこんな言説、よく見聞きしますが、はたして本当なのでしょうか？ 確かに、ニュースでは出会い系サイトを通じて知り合った男女の殺人事件がセンセーショナルに報じられ、不特定の相手とセックスをすることの危険性やモラルの低下が指摘されることがよくあります。

そんな社会的非難も影響してか、“個人的にお金を得るセックス”については、学校での性教育ではもちろんのこと、女性向けのHIV/AIDS予防の情報のなかでも触れられてきませんでした。プロのセックスワーカーへの情報提供と、一般女性に向けたメッセージは、従来、内容が異なると考えられてきたのです。

ところが、インターネットや携帯電話の普及に伴い、性風俗店に勤務せずとも、出会い系サイトなどを利用することによって、個人的にセックスをしてお金を得る手段が広がりました。性産業におけるプロとアマチュアの垣根が低くなり、いわばセックスワークのボーダレス化と呼ぶべき現象が起きています。女性のセックスが多様化しているともいえるかもしれません。

こんな現代女性のセックスの実態を把握するために、18歳から29歳の女性を対象としたwebアンケートを実施しました。この調査は、厚労省エイズ対策事業「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」（研究代表者：東優子）の一環で行われたものです。2007年度から2年間にわたって実施した調査ですが、ここでは2,264名の回答が得られた初年度調査の結果の一部を紹介します。

まず、「（性風俗店に勤めずに）個人的に何らかの性行為をしてお金を受け取った」ことがある人は全体の14.2%。「セックスをしてお金を受け取った」人は11.8%で、回答者の約8～9人にひとりの割合です。さらに、セックスとお金をつなぐ主な手段は、「出会い系サイト」でした。

このような金銭目的の不特定の相手とのセックスには、どんなキケンがあるのでしょうか。調査では、お金のやりとりがあったセックスとなかったセックスのそれぞれについて、トラブルの有無を尋ねました。妊娠や性感染症、セックスのときの暴力や、ストーカー被害などです。

結果――女性の8割以上が「妊娠の心配」と「性感染症の可能性」を経験していました。しかし、それは“お金のやりとりがない相手とのセックス”で起きていたのです。お金のやりとりがないということは、おそらく恋人やセックスフレンドなど特定の相手とのセックスが多く含まれるでしょう。いわゆる“愛のある関係性”や“特定の相手とのセックス”は、これまで予防啓発のなかで「安全なセックス」と謳われてきたものです。ところが、実際には“金銭目的の関係性”や“不特定の相手とのセックス”よりも、妊娠や性感染症の不安を感じた経験が多いという結果が示されました。どちらも、コンドームを使わなかったことが原因のトラブルです。

出会い系でのセックスも、キケンがないわけではありません。「相手が好みではなかった」とか「精神的につらかった」などが挙げられました。ですが、半数近くの女性は、相手と会う前に「コンドームを使う」ことを条件にして交渉をしていました。実際には、その約束が守られず、コンドームが使えなかったケースもありますが、それでも女性が事前にコンドーム使用についてはっきりと交渉することは、特定の相手とのセックスではみられにくいことかもしれません。

女性にとってキケンなセックスとは、「お金」でも「不特定の相手」でもなく、むしろ「愛」を理由にコンドームなしのセックスをしたり、「特定の相手なら大丈夫」という“特定神話”を信じたりすることで起こるといえます。

“特定神話”から脱却し、“いつでもどこでも誰とでも”コンドームを使おうというメッセージを広げることが、女性にとってのセクシュアルヘルスをすすめる鍵となりそうです。

第9回アジア太平洋地域エイズ国際会議 参加レポート

8月9日–13日にインドネシアのバリで開催された9th ICAAP（第9回アジア太平洋地域エイズ国際会議）に、ぷれいす東京から2名が参加し演題発表もありました。参加者からのレポートをお届けします。

「はじめての海外ICAAP参加リポート」　生島 嗣

本年、8月9日–13日まで、インドネシアのバリで開催された第9回アジア太平洋地域エイズ国際会議に出席した。会場は高級リゾートホテルで、隣接してプライベートビーチ、プールがあるという環境だった。

会議には、78カ国から5547人の参加があった。医療従事者、研究者、地域で活動する人達、行政マン、支援団体、さまざまな当事者団体のスタッフ等が集まっていた。24のシンポジウム、5つの講演、投稿演題も2334題あったという。生島は、昨年、都内975カ所の行政や民間の相談窓口がどの程度、HIV陽性者やその周囲からの相談を受けた経験があるのかを調査したのだが、その結果をスタッフの協力で作成した英語ポスターでプレゼンした。

ポスター発表の準備をする生島

インドネシア国内には、27万人の感染者が存在していると推計されているという。国民の4人に3人がイスラム教徒だというこの国で、HIV・エイズの対策を成功させるには、宗教関係者の理解が必須だ。開会式では、各宗教団体を代表した偉い人が並んで、それぞれが祈祷するというセレモニーがあった。また、開会式では、インドネシア大統領、ファーストレディから、男性とセックスする男性、薬物依存者、セックスワーカー等の少数者とその周囲の人達の協力なくしては、この感染の広がりは止められないという明確な決意表明があった。

会議場内にブース展示場があり、様々な団体が出典していた。特に、印象的だったのは、HIVOSという人権団体のブースだ。本部はオランダだが、インドネシアにも事務所があるらしい。ポスターには、「同性愛者を含む、すべての市民が平等な権利を持っている世界をつくるために活動している」とある。

HIVOSのブース

また、会議のなかで、インドの参加者からは、同意のある同性間の性行為が非合法の枠からはずれたことが報告された。HIVの感染予防を効果的にするためには、誰もがよりよく生きる権利の保証が重要だ。

今回の会議では、東アジアでの感染拡大が懸念される、男性とセックスをする男性（MSM）とトランスジェンダー向けの啓発が同居しているのが興味深かった。

「ある南の島で伝えたいこと」　大槻 知子

8月9日（日）–13日（木）にインドネシアのバリ島で開催された第9回アジア・太平洋地域エイズ国際会議には、アジア・太平洋地域のみならず、世界各地からHIV/AIDSにかかわる人たちが集まり、活発な交流や意見交換などが行われていた。

人びとのエンパワメントとネットワークの強化をテーマに据えた本会議では、地域の実情をある程度反映してか、たとえばMSMであったりトランスジェンダーであったりといったHIV/AIDSに影響をうけやすい層の中でさらにセックスワーカーや注射薬物使用者（PWID）、少数民族、移住労働者、というように、より細分化されたニーズにフォーカスをあてた発表が目立っていた印象がある。

日本はちょうどお盆休みで、バリ島で多くの日本人観光客を見かけたが、観光業に従事するインドネシア人の日本語能力は軒並み高い。一方、会議場では、アクセントの強い英語で、時々会場にいた人の即席通訳を交えながらの「調査対象に対し何か変化をもたらすものでなければ、その調査には意味がない」「よそから与えられた枠組みを越えて、私たち自身の言葉で発言しなければいけない」といった、ある当事者参加型リサーチの発表者たちの強い主張を耳にする機会があった。

変化をもたらさない研究は意味がない。伝えたいことをもたない発表は意味がない。

国際会議の場では英語が重要なコミュニケーション・ツールであったとしても、本当に伝えたいことがある時、その正しい文法や発音を用いているかどうかなどは、さほど関係がないことなのだ。

ある南の島で、わたしは彼ら彼女らほどには語るべき言葉をもたなかったかもしれないけれど、そこで見てきたこと、わたしなりのエビデンスはきちんと北の島国で伝えなければ、伝えたい！…との思いを胸に日本に戻ってきたところである。

バリ風の様式を取り入れた会場入り口

シンポジウムの様子

会議場のすぐ隣がプール！
左から大槻、生島（ぷれいす東京）、JaNP＋のボランティアのじゅんぺーさん

ぷれいす東京　新人ボランティア合同研修会

2009年度の新人ボランティアの合同研修が、9/13（日）のオリエンテーションを皮切りに、9/21（月・祝）、9/22（火・休）、9/27（日）の３日間、豊島区立生活産業プラザにて開催されました。

９月の恒例行事となった新人ボランティア研修会を今年度も開催しました。今年は、会場の確保にあたり講師とスケジュールを調整するなかで、不安材料がひとつ。講師と会場の都合でどうしても１週おきで３週連続の日曜日（or 祝日）での開催が難しく、うち２日は連続で開催しなければならないことが判明。それもそこは数年？に１度の秋の大型連休。そんなめったにない連休中に研修をやってどれくらいの人がくるものか？２日連続はヘビィではないか？８年目にしてもやはり不安を覚えつつの準備となりました。

日程は、結局連休のど真ん中の、9/21（月・祝）、9/22（火・休）、の２日と9/27（日）の３日間に決定し募集を開始したのですが、出足はいまひとつ。なかなか難しい…、と頭を悩ませましたが、最終的にオリエンテーションの参加申し込みは40名を越え、例年以上の数となりました。研修には、個別で研修していた方も含めて30名の参加があり、最終的に29名の方が無事に修了しました。２日連続だったことに関して、結果からいえば特に問題なく、皆さん２日目も前日と変わらず、疲れをみせず楽しみながら研修を受けていたのには驚きました。参加者の中には３日連続でもいいのでは？という意見の方もあり、初の試みではありましたがなんとかうまくいった感じです。もちろん、内容は例年と同じく、あれやこれやと参加者に気づきをもってもらうワークや講義をやっているので、しんどかった方もいたのではないかと思います。ともあれ、皆様お疲れさまでした。

リスクアセスメントのワーク

もう既に部門別の研修やミーティングに早速参加されている方も多くいらっしゃると思いますが、これから皆さんがぷれいすのボランティアとして活躍されていくことを期待しています。どうぞ無理のない所で、細く、長く、楽しく活動を続けていただければと思います。

（報告：牧原）

	９月21日（月 / 祝）	９月22日（火 / 休）	９月27日（日）
午前	グランド・ルール	グランド・ルール	グランド・ルール
	社会的な背景 池上	医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識 福原	HIV 感染後の生活と 社会サービス 牧原
	休憩	休憩	休憩
	医学的基礎知識① HIV の基礎知識と 検査法 福原	セクシュアリティの 多様性について 砂川	ピア・サポートの 取り組み 矢島
	昼食	昼食	昼食
午後	プライバシー について 池上・生島	エゴグラムと 交流分析 野坂	相手のある保健行動 ～コンドーム使用と 使用依頼～ ①ワークショップ ロールプレイ ②講義 池上
	休憩	休憩	休憩
	手記を読むワーク スタッフ	セイファーセックス リスクアセスメント 生島・スタッフ	３日間の振り返り 今後の活動について
	振り返り	振り返り	

「腹に落ちる・お話」　ぐぅ

支援は正しかったのか？ニーズに合っていたのか？本音はどうだったのか？など、正しい答えが見つからない霧の中で答えを見つけたいという思いで参加しました。研修を通して「こうあるべきだ、～に違いない」といった思い込みを持ち、医療という「箱」の中で縛られていたことに気づきました。自分を知り、相手を知り、人間の多様性を知る。という、講師陣の皆様からの厳しくも温かな、からくりやメッセージが散りばめられていて、フリーズする思考能力を立て直しながら必死についていきました。研修を受け進める中で「わかっていた（つもりだった？）」から「理解できる」へと思考能力が活用・変化していき、お話が腹に落ちていきました。最後には肩の力が抜けて心地よい達成感が残りました。

バラエティー豊かな講師陣や参加者に囲まれ楽しい三日間でした。研修の準備をしてくださったスタッフの皆様、まとまらない話に付き合ってくださった参加者の皆様ありがとうございました。

「社会のこと、自分のこと、生きること、HIVのこと」

コウヘイ

数年前から参加したいと思っていたのですが、都合がつかずに延び延びに。今回は幸運にもオリエンテーションと研修日程の予定を空けることができました。

シルバーウィークの最中に朝から夕方まで缶詰×３日間。正直「長いなぁ」と思っていたのですが、今考えるとあの時間はとても貴重なものとなりました。

「社会のこと、自分のこと、生きること、HIV のこと、etc.……」についてこれまで考えていなかった訳ではないのですが、講義を受け、ワークを進めるたびに自分の知識と意識の狭さと薄さを実感せずにはいられませんでした。知らずに生きることはできるけど、「知らないって怖いことだなぁ」と改めて感じてしまいました。

今後は、活動を通して学ぶことを楽しみながら、この活動を必要としている誰かのため、自分のためにできることをやっていければと思っています。

「研修で得たもの」　ゆむら

私は今回、HIV/AIDS やセクシャリティについての「知識」を増やそうと意気込んで、新人ボランティア研修に参

加しました。でも、この研修で提供されたのは、(「知識」はもちろんですが、)それ以上に、「感じる」、「考える」機会でした。

ロールプレイ「メトロ保健所」の一場面

研修にはいろいろな人が参加していました。この研修に参加しなければ会うことができなかったと思う人ばかりです。そして、ワークショップでは、そんな参加者の皆さんと、手記を読んでの感想を言い合ったり、セイファーセックスについて語り合ったり、ロールプレイをしたりと、自分の思うことを率直に語り合うことができました。いろいろな考え方やいろいろな意見に、気づかされること、考えさせられることがたくさんありました。

研修では、講義やワークショップを通して、私たちはみんな“当事者”なんだよ、というメッセージが強く伝わってきました。相手に何かをしてあげるのではなく、自分も含めた社会のために、自分ができることをあたりまえのこととしてやっていきたい、そう強く思いました。

「『かかわる』ということ—合同研修を終えて」　中野　創

卒業後の進路に悩み、何か「人にかかわること」に取り組みつつヒントを得ようと、軽い気持ちでボランティアに応募しました。研修の内容は大学の専攻とかけ離れていて、経験も知識もほとんど無い状態からのスタートです。

正直、不安が無いと言えば嘘になります。「他人様の心に直に触れるような仕事が務まるのか」と、研修を前に悩む事もありました。

また、僕たちはどうしても、自分の先入観や偏見によって曇った眼鏡で社会を眺めながら他人とかかわってしまっており、自分もそういうこだわりが強いという自覚はありましたので、今回の研修は眼鏡についた汚れに気づき、丁寧に落としていく作業から始まりました。いろいろな価値観や社会的背景、セクシュアリティを持つ参加者の中で行う研修は、毎回、驚きと発見の連続でした。

等身大の自分で相手を受け入れ、隣人になる。

そういったかかわりの中で、自分自身もempowerしていきたいと思っています。これからどうぞよろしくおねがいします。

ゲイバーを通じた地域介入プログラムについて

HIV予防のための戦略研究MSM首都圏グループは、市川誠一氏（名古屋市立大）を研究リーダーとして、ぷれいす東京、Rainbow Ring、JaNP＋、Cruiseという、HIV感染予防、HIV陽性者支援、HIV陽性者の当事者ネットワークなど多様な活動を行なう4団体が連携しながら実施している介入型の研究プロジェクトです。

「私たちがこの研究プロジェクトで目指すもの」

(財)エイズ予防財団　流動研究員　砂川 秀樹

2010年度まで続く「エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ」では、男性と性行為をする男性（MSM）の受検者数の倍増、発症で感染がわかる人の25%減少という数値目標が与えられています。しかし、単に検査数を増やせばいいわけではないと、このグループでは考えています。

受けたい時に安心して検査を受けられること、感染がわかった場合に支援が受けられること、それらの情報が提示されていること。そして、「コミュニティ」の中で、HIVに感染している人、していない人、わからない人が、ともに生きていることが理解されること。それらを実現しつつ、目標へ向かうことが、このグループの方向性なのです。

しかし、その道は容易ではありません。ですから、様々な方法を用いて取り組んでいます。これまであまり啓発活動が入っていなかった新宿以外の地区にあるゲイバーと関係を深めることもその一つです。そして、その活動がどれだけ影響力があったのかを把握するための質問紙調査もおこなっています。2010年度の終了後、数値的な形だけでなく、バーの方々からも「いい取り組みだった」と評価されるものとなればと思っています。

エイズ発症予防を呼びかける「できる！」キャンペーンのロゴ

「TOMARI-GIというバーママへの情報誌の創刊」

永易 至文

以前にバーのかた向け勉強会「タウンミーティング」を実施したとき、お店の人向けの瓦版のような情報ペーパーがあるといいし、また、その配布を通じて新宿のデリヘルボーイズが回っているお店以外のお店とも交流のきっかけになるのでは、との意見が出され、「プロ向け」冊子として1年前に創刊された『TOMARI-GI』。お客さんを待ってるあいだにちょっと読んで、それが接客での話題になったり、「カウンターからの啓発」に繋がったり、同時にこの冊子で、HIVの問題とバーが地続きで、楽しく飲んでるお客さんのなかにもさまざまなステイタスの人がいるんだ、でも、みんないっしょに生きてるんだ、ということの気づきのきっかけになれば、との趣旨から刊行が続けられています。

毎号、ゲイバーのある街が表紙に

バーは、MSMコミュニティの一つのかなめとして、コミュニケーションの中心や情報の発信元になっていることは言うまでもありません。戦略研究で制

作しているさまざまなパンフレット等は誰が読んでも有益な情報が掲載されていますが、カウンターの中にいる人によりターゲットを絞った企画や表現を持ち味とする『TOMARI-GI』。首都圏のお店の人の「止まり木」となれればと願っています。

「バーのママさま、マスターさま向け勉強会」の報告

ぷれいす東京 / (財)エイズ予防財団 流動研究員
岩橋 恒太

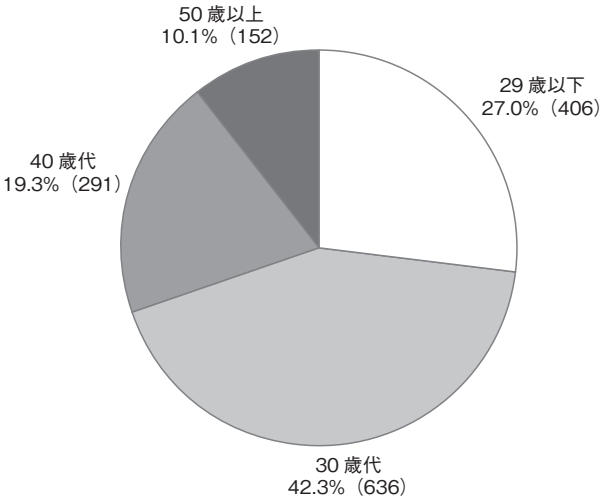
ゲイバー向け季刊誌「TOMARI-GI」の3号(2009年6月)より、私たちはそれぞれ担当の街を決め、可能な範囲でこの冊子とコンドームなどの配布を開始している。今の私の担当は上野・浅草で、月に数回、約20軒ほどのゲイバーを訪問させてもらっている。訪問するなかで、「ホモのあいだで増えているんだって?」に始まり、長いときには数十分にわたってHIVについて聞いてくれるマスターもいらっしゃった。私は次のTOMARI-GIの読者イベントのテーマは、HIVのファクトを伝えることだ!と思った。

今回のイベントは「歌舞音曲」なし、札幌のママたちの啓発活動を伝えるドキュメンタリービデオとエイズ動向委員会報告、そして2009年2月に実施したバー・アンケートの紹介と、みっちり「バーのママさま、マスターさま向け勉強会」の内容だった。さらに、アンケートに協力してくださった新橋、上野、新宿・浅草、野毛の順に、9月から10月にかけて集中的にすべてまわってイベントを実施するという強行軍でもある。

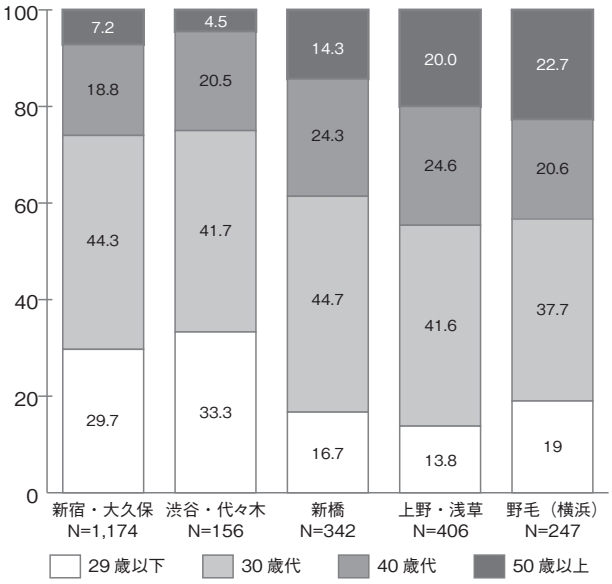
紹介したバー・アンケートは110軒のお店にご協力を得て、1,562人から回答いただいた(2,820部配布、回収率64.7%、分析対象のMSM1,485名、グラフ1参照)。回答者の年齢は、18歳から76歳までの方が参加している(平均年齢36.6歳)。このことは40代以上の方から442件(全体の29.4%)の回答をいただいていたりと、ゲイバーに来ているお客さんのアンケートという限定はあるけれど、幅広い方からの回答をいただけたと考えている。街ごとのお客さんの年齢構成など(グラフ2参照)の基礎情報の他、50代以上の生涯受検率やアナルセックス時のコンドーム常用率が他の年齢層と比較して、低く出ていることも紹介した(グラフ3参照)。これについては近年の動向委員会の報告で、50代以上の男性同性間でエイズ発症により感染がわかる人の増加が報告されていることとあわせて、マスターたちと意見交換をすることができた。なかには「50代以上が使わないのは、生でやるのが気持ちいいっていうことを知っている年代だからじゃないの?」という、直球のコメントもいただく機会となった。

イベントの終わり、マスターたちとお話をするなかで、「浅草のバーのママがblogでこのイベントに参加しているって書いてるのをみて、忘れていたけど、急いで参加しようと思ったんだ」と語った、新宿のマスターもいらっしゃった。それぞれの街の点と点が、線で結ばれていくような気がしてうれしかった。訪問を続けている上野・浅草を始め、いろいろな街のマスター、ママさんたちとの信頼関係を今後も、築いていけたらと願います。

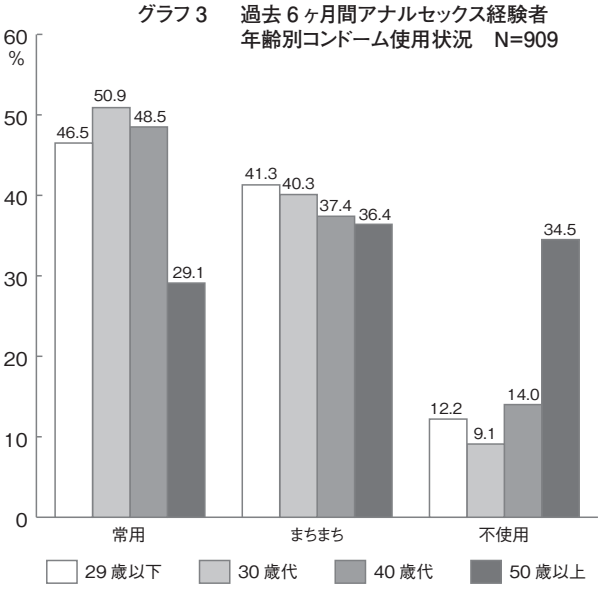
グラフ1　回答者年齢内訳 N=1,485



グラフ2　年齢別利用エリア(複数回答)



グラフ3　過去6ヶ月間アナルセックス経験者
年齢別コンドーム使用状況　N=909



ネストより

ネスト・プログラムの定番となった、シリーズ「専門家と話そう」の第５回目と第６回目、そして「Women's Salon」が開催されました。それぞれ、HIV陽性者がいま必要としているテーマにフォーカスして行われ、参加者数も多く、質疑応答も盛んな会となりました。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

シリーズ“専門家と話そう”
第５回「クリニックのドクターと話そう」

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

Dr.山中晃（新宿東口クリニック院長）をお招きして５月15日に行われました。当日参加した15名の中から３名の感想文をお届けします。

ゲストのDr.山中晃（右）

「初めて参加したイベント」　シミズ

病院でぷれいす東京のことを知って電話をしたのが１週間前の自分にとって、初めてのイベント、主治医以外の専門医の生の声を聞くのも初めて。全てが初物尽くしの体験でした。思っていたほど固いものでなく、最前列に座ってしまい最初は緊張しましたが安心して聞くことができました。

ドクターの物腰はやわらかく、見ず知らずの私にまで声を掛けてくれるほど、親しみやすくて分かりやすくこたえて下さったと思います。新陽性者の自分には分からない単語や内容の話も幾つか出てきましたが、スタッフの生島さんや矢島さんのフォローがいいタイミングで入ったので全く問題ありませんでした。

今日のイベントは質問をするつもりではなく、ただ情報を吸収できればと思って参加しました。ところが、参加しているうちに、いくつかの疑問も湧いてきたので、やはり質問をすれば良かったと思っています。時間の制限等あると思うので、その場での即答だけでなくメールやニュースレター等との連携もあっても良いのでは？色々な制約があって難しいんですよね。

今後の参考にしたいと思います。貴重な体験をさせて頂き有り難うございました。また別のイベントにも参加させてもらいます。

「山中先生のお話を聞いて」　ピコラ

今回、初めて主治医以外のHIV治療のお医者さんの話を直接聞くことができて、参考になりました。投薬始めてから三年越えましたが、いまだにこの病気に納得いかない事はたくさんあります。通院する病院も選ばずに通って馬鹿をみる事だって普通にあるし。

山中先生の真摯に真面目に取り組まれてる姿勢に大学病院の先生とは段違いで感動しました。お話の時間が投薬時間と重なって普段は家にいる時間帯だったので、いまいち頭が働かなかったので聞いてるのが必死でした。先生もお疲れの様子なのにこうした機会に出向かれるなんて、私の先生もそのくらい一生懸命になれよと思いました。

「久しぶりぶりに…」　妖精歴５年と半年の妖精

初めてこういった会に参加したのですが、本来、あまり悩む性格ではないので、参加されていた皆さんの質問に圧倒されたのと同時に「みんな病気とちゃんと向き合っていてすごいなぁ…」と感心するばかりでした。

ただ、一つ気になることがあると言えば、近くの病院にかかる時にこの事実を伝えるかどうか…。ちょうどそんな質問が出た時、先生は「特に伝えなくて良いのでは…」と言っていました。実際、私は何も言わずに診察を受けています。言ってしまうと診察拒否をされてしまうのではないかと不安になるからです。が、なんだか複雑な心境です…。まだまだ難しい問題なんだなと感じました。

日々の生活の中、薬を飲む時以外全く気にしていない自分を久しぶりに見つめ直す時間となったこと、そして、他の方々の悩みなどに触れる事で軽はずみな言動は慎まないといけないと、能天気な自分に改めて喝を入れ直しました。

また、こうイッた企画などがあれば参加したいと思います。ありがとうございましたＶ(^-^)Ｖ

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

シリーズ“専門家と話そう”
第６回「生命保険のプロと話そう」

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

９月18日に、生命保険のプロをお二人お招きして、参加者18名にて行われました。参加者の中から２名の感想文をお届けします。

「今回の一番の収穫」　TOKIOの星

「専門家と話そう」という勉強会で、生命保険のプロを呼んで、HIV感染者を取り巻く「今」を話してくれるとの情報を耳にし、数年振りにネストにお邪魔しました。

確か何年か前にも同じような勉強会があったなと思いつつ話を聴いてはいたのですが、数年程度の時間の流れでは、正直そんなに目新しいという内容ではないかも……感染を知る前に保険に入っていなかったことを軽く後悔しながら、話を聴いていたのですが……。

生命保険に絡んで、不動産融資を受ける際の団体保険についての話もありました。現在某都市銀より不動産融資を受けようかと考えているのですが、団体保険加入時の告知義務が問題かと。でも、最近は団体保険に入らな

くても不動産融資をする銀行が出て来ているとのこと。もしかしたら今回一番の収穫かも。まあ、支店等の裁量で随分変わる話らしいので、どう調べるかがポイントになりそうだけど、諦めていたことを、考えてみようかと現在思案中です。

「ライフプランを考えるということ」　　あんしんくん

そもそも保険とはどんなものなのかといった基本的なお話から伺うことができ、私が勘違いしていたことや、あきらめていたことがいろいろ理解できて良かったです。印象的だったのは「誰にとっても良い保険などない」という言葉。20–30代で結婚や子育ての時期をむかえる人と、独身を続ける人では、「良い保険」は異なるわけで、当たり前のことですが、だからこそこれだけ多くの種類の保険商品が出ているのだなーと今さらながら思いました。また、そのような多様な生き方を前提として話を進めてくれた講師・スタッフのかたに感謝しています。

保険について考えるというのは、ライフプランについて考えるということなのですね。漠然と考えていた将来設計や、老後や、もしもの時のこと……。慢性疾患に近くなったとは言え、治らない病気を持っていることもまた事実。それは保険会社にとってリスクであることも確かで、そういった自分や社会やお金を巡ったリアリティに直面した感じがします。今は「無選択型保険」という、健康状態にかかわらず入れる保険があることも知りましたし、あらためて自分のライフプランを見直す良い機会になりました。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

第7回 Women's Salon
「女性陽性者と人生設計　～妊娠・出産～」

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

7月20日に、「女性陽性者と人生設計　～妊娠・出産～」をテーマに、定月みゆきさん（国立国際医療センター戸山病院　15階病棟医長、産婦人科医）をゲストにお招きして行われました。Women's Salonスタッフからの報告と参加者の感想文をお届けします。

DR.定月

「第7回目Women's Salon　報告」

Women's Salonスタッフ　佐藤由加

今回は、参加された皆さんからの質問に定月先生が説明を加える、という形で会が進みました。

妊娠中の服薬や断薬について、早産、高齢出産について、費用についてなど、具体的な妊娠、出産に対する質問のほかに、現在の産科医療の現状を知りたい、話を聞いてみたいという方や、現在子育て中の方からは、子育ての悩みを共有できるお友達を見つけたいという参加動機が話されました。また、妊娠の予定はないけれど、子宮頸がんについて知りたいという方もいらっしゃり、それぞれにお答えいただきました。

参加者は8名で、テーブルを囲む椅子がいっぱいになるほどでしたが、定月先生の柔らかなお話のされ方のためか窮屈な感じはせず、ゆったりした気持ちで参加させていただきました。

「貴重な時間となりました」　　N

この度は、第7回 Women's Salon の場を設けて下さり、スタッフの皆さん、どうもありがとうございました。私は、去年12月に感染を知りました。服薬はしておりません。気持ちはだいぶ落ち着きましたが、友人や両親には話しておらず、やはり病気のことには縛られてしまいます。

そんな中、心許せる同じ女性の方とお話しする場を持ちたかったので、すぐに参加を申し込みました。私にとって、皆さんとの出会いは大変貴重でした。参加者の皆さん、お話ししていただき、どうもありがとうございました。

また、体験された方が出席され、お話しして頂いた事は大変貴重でした。それは私たちにしか分からない部分でもあります。気さくに体験を語って頂き、また、その時の心境等もお話しして頂き、貴重な時間となりました。

ミーティングの進行は、私たち各々の疑問に対し、病院の先生から専門知識を丁寧にお答えしていただき、充分意味のあるミーティングとなり大変良かったです。具体的に知る事ができ、曖昧だった部分が明確化しました。定月先生、どうもありがとうございました。また宜しくお願い致します。

今回の Women's Salon のように、また交流できる機会がもう少し多くあればと思います。

「出産を前向きにとらえるきっかけに感謝！」　　はな

妊娠から出産まで様々なお話が聞けて、今まで漠然としていたものが、ずいぶんと具体的な計画として見えてきました。先生にはプライベートな質問攻めにも関わらず、一つ一つ丁寧にお答え頂き、また美味しいお菓子とお茶までごちそうになって、とても有意義な午後が過ごせました。

出産はたぶん女性にとっての一大イベントで、さらにVさん（HIV）もご一緒されるとあって『…大丈夫かな』と意味もなくナーバスになったりするわけですが、専門家の先生に淡々とお話を伺うと、自然と心も落ち着き、前向きに産んでみたいな、と思えるようになりました。出産に向けてそれぞれ課題や抱える事情は様々かと思いますが、赤ちゃんを望む全ての女性に良い結果が訪れるよう願っています。

最後にこのような会を開いて頂いて、ぷれいすさん、ありがとうございました。

部門報告
（2009年7～9月）

ホットライン
エイズ電話相談（ぷれいす東京および東京都委託）

相談実績報告

―ぷれいす東京エイズ電話相談―

	7月	8月	9月
日　　数（日）	4	5	4
総 時 間（時間）	16	20	16
相談員数（延べ人）	6	6	5.5
相談件数（件）	35	41	35
うち（男性）	27	25	25
（女性）	8	16	10
（不明）	0	0	0
陽性者相談	1	0	0
要確認相談	0	0	0
1日平均（件）	8.8	8.2	8.8

―東京都夜間・休日エイズ電話相談―（委託）

	7月	8月	9月
日　　数（日）	13	14	12
総 時 間（時間）	39	42	36
相談員数（延べ人）	33	33	31.5
相談件数（件）	245	211	204
うち（男性）	207	176	152
（女性）	36	35	51
（不明）	2	0	1
陽性者相談	0	0	1
要確認相談	1	0	1
1日平均（件）	18.9	15.1	17.0

ホットライン部門・活動状況　（ ）内は出席人数

7月　19日　世話人会（6名）
　　スタッフミーティング（15名）
8月　5日　ＨＬ部門研修の打合せ（3名）
　　情報整理プロジェクト（3名）
　12日　エイズ学会発表の打合せ（2名）
　14日　東京都電話相談連絡会（2名）
　16日　世話人会（7名）
　　スタッフミーティング（13名）
　29日　東京都ボランティア講習会
　　「こころのケア～相談を受ける自分のつらさをどう解消するか？」（3名）
　30日　エイズ学会発表のグループインタビュー（7名）
9月　1日　情報整理プロジェクト（4名）
　11日　東京都電話相談連絡会（3名）
　13日　合同研修オリエンテーション（2名）
　19日　情報整理プロジェクト（5名）
　　エイズ学会発表の打合せ（2名）
　20日　世話人会（7名）
　　スタッフミーティング（23名）
　　シフト担当引継ぎ（5名）
9月　20日　新人ミーティング（8名）
　　エイズ学会発表のグループインタビュー（9名）
　26日　新人研修打合せ（2名）

ぷれいす東京の相談件数は安定していましたが、東京都の相談件数には月ごとのバラつきがありました。

また全体的に相談件数は低調です。前回の報告でも触れましたが、やはり新型インフルエンザへの意識が高くなり、HIV は忘れられているようです。こういう時こそしっかりとした対応をしていきたいと思います。

この間の活動は、とても積極的に行われました。

（報告：佐藤）

バディ
陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

第1木曜 11:00-（奇数月は第1土曜日）
第3木曜 18:30-

7/4	3人	7/16	2人
8/6	中止	8/20	5人
9/5	3人	9/17	5人

※ 個別のミーティング（7月～9月）　6件

利用者数

13カ所の病院に通院中、もしくは入院中の18名の方にのべ22名のバディスタッフを派遣

活動内容（2009年9月末現在）

派遣継続中	21件
在宅訪問	11件
病室訪問	2件
派遣休止	6件
検討中	2件

7月～9月の派遣調整　4件

7月～9月の派遣終了/休止　3件
ニーズの消失　2件
クライエントの死　1件

今後のミーティングの日程

午前ミーティング　11：00-13：00
11/7（土）　12/3（木）
1/9（土）

午後ミーティング　18:30-20:30
11/19（木）　12/17（木）
1/21（木）

※1月の午前ミーティングは、第2土曜日に変更になります。第1土曜日ではないので、お間違えのないようにお願いします。平日のミーティングに参加できない方、ぜひ土曜日のミーティングにご参加下さい。

バディの現場から

8月にクライエントの方が亡くなり、1件の活動が終了しました。もともとターミナルになってから依頼のあった方で、短い期間ではありましたが、本人のお手伝いが少しはできたのではないかと思います。また、2件の活動が終了・休止になりました。2件ともご本人から体調面、精神面で安定したので、終了・休止されたいとの意向でした。3つのケースに活動いただいたバディの方、活動お疲れさまでした。ありがとうございました。

今年度も合同研修の終了後の10/4(日)に、バディ・ワークショップを開催しました。今年は9名の方が参加、無事に修了し、バディとして登録を行いました。新人の方はケースを持つまでしばらく待機になりますが、活動になるまで楽しみにお待ちいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(報告：牧原)

ネスト
陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)	(＊ファシリテーターなど)
7月	29日	300名	(10名)	(14名)
8月	22日	193名	(8名)	(15名)
9月	23日	232名	(14名)	(10名)

(＊はファシリテーター、web NEST運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

カフェ・ネスト

7月：5回　92名
8月：3回　53名
9月：4回　74名

ピア・グループ・ミーティング (PGM)

・新陽性者PGM第47期 (参加者7名)
　7/4 (修了)

・新陽性者PGM第48期 (参加者7名)
　7/12　7/25　8/9　8/22 (修了)

・新陽性者PGM第49期 (参加者7名)
　9/3　9/24

・陰性パートナー・ミーティング
　7/11 (4名)　9/12 (7名)

・ミドル・ミーティング
　7/11 (12名)　8/8 (11名)　9/12 (7名)

・もめんの会 (HIV/AIDS を支える母親の会)
　7/30 (7名)

・Women's Salon第7回
　「女性陽性者と人生設計　～妊娠・出産～」
　7/20 (8名) (詳細p.7)

学習会/イベント

・ストレスとうまくつきあうためのワーク第9期-3
　7/24 (11名)

・ネスト庵「テーブル茶会」
　8/29　(参加者15、ご亭主2)

・"専門家と話そう" シリーズ
　第6回「生命保険のプロと話そう」
　9/18 (参加者18名) (詳細P.6)

ミーティング (陽性者メンバー、ぷれいす東京スタッフほか)

・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
　7/11 (5、8)　8/27 (6、6)

・web NEST運営委員会
　7/31 (3、2)　8/28 (4、2)　9/25 (4、2)

・ネスト世話人会
　7/23 (1、3)　9/3 (1、3)

・カフェ・ネストミーティング
　8/26 (1、7)

ネスト・ニュースレター

7/13　7月号発行
8/3　8月号発行
9/4　9月号発行

7月の延べ利用者数は、これまでで2番目に多い300名だった。大きなプログラムはなかったが、カフェ・ネストが5回あったこともあり、92名と過去最高数を記録。また、定期開催のグループ・ミーティングのほかに、もめんの会、Women's Salonが開催され、学習会でも、第9期となったストレスとうまくつきあうためのワークに10名以上の参加者があるなど、プログラム数もプログラム参加者数も比較的多かったことなどから、全体の利用者数が多くなった。反対に8月は、夏休みがあり、オープン日数もプログラム数も少ないことから利用者数が比較的少ない月となっている。

(報告：はらだ)

Gay Friends for AIDS
ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動　http://gf.ptokyo.com

Gay Friends for AIDS 電話相談

7月	10件	(1日平均2.50件)
8月	12件	(1日平均2.40件)
9月	12件	(1日平均3.00件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

7月	0件
8月	1件
9月	0件

この夏は様々なイベントがありました

「エイズ予防のための戦略研究」の一環で、7月に開催された「プレリュード2009」、8月末の「新宿二丁目レインボー祭」、さらにゲイサークルのスポーツイベントなどに

スタッフが参加しました。
特に「新宿二丁目レインボー祭」では、オレンジ色のTシャツを着たキャンペーンスタッフにGフレからも多くのメンバーが参加。うちわなどの配布を行いました。

webサイトオープンまでの間の情報はブログにて

前号でお伝えしたGフレのウェブサイトですが、オープンまで今しばらくお時間をいただきます。申し訳ありません。
イベントなどの情報はGフレのブログでお伝えしています。携帯からの閲覧も可能ですのでご利用ください。
http://gayfriendsforaids.blog82.fc2.com/

新しいイベントが始まります

Gフレでは久しぶりになる、トークイベントを企画しています。
タイトルは「アノコト」。セックスにまつわるテーマで、ゲストもお招きしつつ来場者の方にもトークに加わっていただけるようなイベントを目指しています。
第1回は11月14日（土）18:00より新宿二丁目コミュニティセンターaktaにて開催します。
次号ではイベントの様子などをお伝えします。

（報告：sakura）

HIV陽性者への相談サービス

相談実績2009年7～9月

2009年	7月	8月	9月
電話による相談	151	128	109
対面による相談	66	41	61
E-mailによる相談等	88	76	77
うち新規相談	29	26	26

※メール新規は含まず

7～9月の新規相談者の属性（N=81）

陽性者：　47人（男性：42　女性：5）
パートナー（元）：19人（男性：12　女性：7）
家族：　5人（男性：3　女性：2）
その他：　6人（男性：3　女性：3）
判定保留を含む
専門家：　4人（男性：1　女性：3）
生活保護担当、保健所

7～9月新規相談者の情報源（N=81）

WEB（携帯含）	36件	コミュニティセンター等/NPO	2件
パンフレット等（戦略研究冊子等）	8件	保健所/検査所	2件
陽性者	5件	医師	2件
電話相談	4件	看護師	2件
病院	3件	以前から知っていた	2件
カウンセラー	3件	MSW	1件
パートナー	3件	職場	1件
友人	2件	不明	5件

7～9月新規相談の内容（N=81）

【ミーティング/ネスト利用等】
- PGMインテーク＆オリエンテーション。
- 知りあった陽性者にPGMへの参加を勧められた。
- ミドルミーティングにでてみたい。
- バディ利用の問い合わせ。
- 病棟の看護師による情報提供で、PGMに参加することに。
- SNSのコミュで生命保険の勉強会があることを知り参加したい。
- 陽性の彼氏とつきあって数年、パートナーMTGに参加を希望。

【ぷれいす東京への参加、サービス利用】
- 一度、来てみたいと思っていた。
- 友達にさそわれて、ネストにきてみた。
- 発症で入院。退院後、ようやく他の陽性者と交流したいと思うようになった。
- 外国人女性。夫と病院だけで話せるけども、一人で苦しい。
- パートナーに紹介された。外国人で学生。
- 約10年前に告知。その保健所に連絡したら、こちらを紹介された。
- 女性の相談員と話したいが可能だろうか。
- 自分は外国人。最近告知を受けた。「たんぽぽ」をみて連絡した。

【検査や告知】
- 数ヶ月前に、献血で陽性だとわかる。今後のことについて知りたい。
- 妊産婦検診を受け、翌日に判定保留の結果。確認検査中。（北海道／東北）
- 数週間まえに保健所で告知。初回数値が低く、入院を勧められている。
- 息切れで病院にいったらカリニ肺炎だった。落ち着いたら転院といわれている。
- 体調不調で近医にいき、性病が判明。HIV検査も勧められて受検し、陽性と判明。
- 皮膚科の医師の気になるコメントで検査にいった。
- 保健所で告知。病院は都内。制度利用によるプライバシーが心配。（甲信越）
- 健康診断のオプションで同僚とノリで検査を受け、陽性だった。
- ケガがなおりにくく入院。検査をしたら陽性。
- 大腸検査をする前の術前で感染が判明。
- 女性。最近、つきあい始めた彼氏が判定保留だった。（東海）
- 判定保留だった。前回の中絶時には陰性。最近セックスはない。

【医療など】
- オペ前の検診で陽性と判明。医師の経験不足が不安。（東海）
- 脳が萎縮しているといわれ、外出が制限されている。
- 1週間前に感染がわかった。最近の感染らしい。病院選択について相談したい。

・少し前に、パートナーの感染が判明。医療者とのコミュニケーションで悩んでいる。(東海)
・ナースに精神科にも通院を勧められたが、役にたたないと感じた。(近畿)
・保健所の検査で陽性だった。紹介された拠点病院が通院するには遠い。
・病院の都合で検査をすすめられ、検査した結果陽性だった。
・オペの必要があり、大阪から都内に移動したい。医療機関との交渉について。
・去年告知。先生とウマがあわずに、通院中断。体調が悪くなり、不安に。(関西)
・1年前に地元で告知。医療機関がたよりなく都内に引っ越した。

【人間関係】
・自分は長男なので、家族には病名は言えない。
・弟の感染がわかった。弟がゲイだとは知っていた。(東海)
・女性。知り合った相手と予防なしのセックスがある。HIV+だと通知されて混乱。
・女性。彼からHIV以外の血液の病気があることは聞いていたが、彼の部屋にあるもので、HIV陽性だと知った。
・パートナー候補の感染がわかった。対面相談をお願いしたい。
・陰性パートナーと合意で予防無しでセックスを実践。別れ話をきりだすと、一生一緒にいるはずだったのにと言われた。
・術前検査で陽性だった。既婚者で家族には話せない。
・陽性の男性とセックスをした。その行為の内容で不安に。
・病院で検査をうけ、陽性とわかる。パートナーには未通知。
・献血で感染を知った。妻は妊娠中。(近畿)
・彼が陽性だとわかった。彼は別れるというけども、自分はどうしたらいいだろう。(近畿)
・パートナー候補からの相談。相手から感染を告げられ、戸惑っている。(北海道/東北)
・妻。夫の感染がどうしてか判らない。(近畿)
・彼女から感染を知らされ、自分は陰性だった。今後のことを相談したい。
・数年前に感染がわかった。彼女がいたので通知、受け止めてくれた。
・夫の感染が肺炎でわかった。どう対応したらいいだろうか。
・パートナーの感染が判明。うつ傾向もあり、どう対応したらいいか。(近畿)
・最初にお互い陰性を確認。相手の感染経路は気になる。でも、別れない。
・きょうだいから。感染を知らされた。どう支援したらいいかを考えている。
・女性。夫以外にパートナーがいる。その相手経由で感染した可能性が高い。
・家族から。だいぶ前に告知されたが、治療中断。最近、具合が悪くなり入院。
・友達の陽性が判明。ペットを飼うことのリスクについて。
・女性。急な入院で彼氏の陽性がわかった。これまで知らない面を知ることに。
・女性。自分の彼氏は感染リスクのある仕事であったので、びっくりはしなかった。

【心理的なこと】
・薬物の誘いから逃れるために、移動したのだが、金銭的に困窮。
・薬物で服役中に見たテレビで、カミングアウトレターズを知り、ぷれいす東京の情報も得た。
・職質で違法ドラッグがでてきた、昔にもらったもの。

【生活や福祉】
・家の購入を考えている。ローンを組めるかなど、問題点について相談したい。
・美術館に手帳で入場しようとしたら、手帳の中身までみせろといわれた。職員の対応に疑問。
・昨年暮れ、夫の感染が判明。会社員で健保から情報が漏れることを恐れているらしい。

【専門家】
・検査で通訳を担当。英語圏のピアなサポートがあれば、知りたい。
・生活保護担当：HIV陽性者で薬物依存がある住民に関する相談。
・生活保護担当/保健所：認知症傾向がみられる中高年男性。入所施設のトラブルがあり、転居先を求めている。

【就労】
・海外への転勤の予定がある。現地の情報を知りたい。転職も念頭にいれている。(九州/沖縄)
・公務員だった。いろいろかさなり退職。ストレスと買物で経済が破綻。(近畿)
・公務員の臨時採用で勤務だが、プライバシーが不安。
・最近感染がわかった。服薬を検討中。職場の健康保険をつかうと、どう個人情報が流れるのか？
・自分はあまり患者がいない病院で見てもらっている。就活中で情報がほしい。
・不況で解雇になり、生活設計をどうしたらいいかを考えている。

(報告：牧原/福原/生島)

研究部門

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」
(研究代表：生島 嗣)

・8月9日（日）-13日（木）にインドネシアで開催された第9回アジア・太平洋地域エイズ国際会議に参加し、「地域の相談機関におけるHIV陽性者への相談対応に関する調査（Research on Support for PLWHA in Regional Counseling/Support Organizations in Tokyo）」の発表を行いました（詳しくは2ページの報告をご参照ください）。

・8月22日（土）-23日（日）に本年度第2回班会議および、支援者の準備性向上のための研修プログラム、HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査の結果、全国の保健所を対象とした調査の質問紙の検討に関するセッションを実施しました。

・日本エイズ学会学術集会のサテライトシンポジウムとして、11月26日（木）18時より（財）エイズ予防財団研究成果等普及啓発事業「HIV／エイズとともに生きる人々の仕事・くらし・社会」を名古屋国際会議場で開催します。学会員でなくともご覧になれますので、ぜひご来場ください（詳しくは「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」（http://www.chiiki-shien.jp/）をご参照ください）。（報告：大槻）

エイズ予防のための戦略研究（研究リーダー：市川誠一）
MSM首都圏グループ

・エイズ発症予防を呼びかける「できる！」キャンペーンが始まりました。web上で「HIV陽性者･その周囲の人たちの経験談募集」を行い、様々な経験の語りが集まっています（HIVマップからご覧ください）。また、HIVをめぐる基礎情報を伝える『FACE TO REAL』の改訂版が、様々な年代に向けたイラストを掲載して完成しました。

9人のイラストレーターによって描き分けられたカード版「Face to real」

・MSMへの準備性を高めることを目的とした保健所HIV検査関係者向け研修会を、千葉県（9/11）、東京都（9/18）との協働で実施しました。また、協力関係にある保健所を紹介するwebサイト「あんしんHIV検査サーチ」の紙版パンフレットが完成しました。

・ゲイバーのママ・マスター様向け勉強会、TOMARI-GI café EVENTを新橋（9/26）、上野（10/1）、新宿（10/5）、野毛（10/17）で実施。主に08年度に実施したバーアンケート、08年度エイズ動向委員会報告の紹介をしました。

・携帯電話アンケートをPrelude、Living Together計画、スポーツ系サークルの3つのグループで実施しています。（報告：岩橋）

MSM京阪神グループ
「陽性者サポートプロジェクト関西（POSP）」

・web、ビジュアル等、イメージをリニューアル作業中。

・陽性者サポートライン関西
電話相談　7月-9月：9件

・ひよっこクラブ
第1期を実施し、参加者6人で3回のミーティングを修了した。振り返りミーティングも終了。第2期を1月に開催予定。

・地域カンファレンス
8月20日に、テーマ「大阪の検査体制、医療体制」として、参加者38名（保健師：8名、医療従事者：9名、NPO・NGO：13名、発表者：2名、chot CASTなんば スタッフ：2名、スタッフ：4名）で開催された。

11月3日に次回地域カンファレンスを保健師向けに行う。大木幸子氏を講師に予定。

・大阪版たんぽぽプロジェクト
大阪市が印刷費を予算化し、chotCAST、大阪府も協力。（報告：生島）

◆◆ ぷれいす東京より　賛助会員入会・寄付のお願い ◆◆

HIV陽性者の数は年々増え続けています。新たな治療法は開発されていますが、治療を続けながら生活する上では様々な問題が発生しています。HIV陽性者とその周辺の人たちへの支援、コミュニティとして取り組んでいる予防活動等、私たちの活動へのニーズがますます高まっており、必要な運営資金も増え続けています。よりよいサービスやプログラムを継続するために、ぜひ私たちの活動を応援してください。

賛助会員入会のお願い
継続して応援してくださる方は賛助会員になってください。

--- 賛助会員になるには？ ---
メールか電話/FAXで賛助会員入会をお申し込みください。折り返し、ぷれいす東京の案内と賛助会費専用の振込用紙をお送りします。

E-MAIL　info@ptokyo.com
電話　03-3361-8964　　FAX　03-3361-8835
年会費　個人賛助会員（一口）　1万円
　　団体賛助会員（一口）　10万円

寄付のお願い
そのほか随時寄付をお受けしています。ぷれいす東京の活動をぜひともご支援ください。ご寄付はいくらでも結構です。匿名でも可能です。

--- 寄付の振込み方法 ---
◇ぷれいす東京の活動全般に対する寄付
郵便局　郵便振替口座　No.00160－3－574075
特定非営利活動法人　ぷれいす東京　代表　池上千寿子
銀行　三井住友銀行　高田馬場支店　普通　2041174
特定非営利活動法人　ぷれいす東京　代表　池上千寿子

◇HIV陽性者への直接支援活動「ネスト/バディ」への寄付
銀行　三菱東京UFJ銀行　高田馬場支店　普通　1314375
特定非営利活動法人　ぷれいす東京　代表　池上千寿子

◇Gay Friends for AIDSの活動への寄付
銀行　みずほ銀行　高田馬場支店　普通　5507255
特定非営利活動法人　ぷれいす東京　理事　生島　嗣

編集後記

・窓ガラスを磨いた。部屋の中の掃除と一緒にしたら、スッキリ感倍増！年末行事と思い込んでた窓の掃除…習慣になりそうです。（こんどう）

・先日、免許更新で写真を撮った。出来た写真が、自分でも意外なほど怖い顔。これって、自分を映す鏡なんでしょうね。気をつけないと。（いくしま）

・部門報告が4ページ半と過去最高のボリュームに。いつもはこのコーナーを読み飛ばしている方も、ときにはじっくり活動の詳細に目を通してみてはいかがでしょう。いろいろな発見があると思いますので是非！（やじま）

編集・発行：特定非営利活動法人　ぷれいす東京
〒169-0075　東京都新宿区高田馬場4-22-46　ザ・テラス204
TEL：03-3361-8964（月－金 12:00～19:00）
FAX：03-3361-8835
E-mail：info@ptokyo.com
ぷれいす東京HP：http://www.ptokyo.com/
Gay Friends for AIDS：http://gf.ptokyo.com/
web NEST：http://web-nest.ptokyo.com/